

# 令和4年度 学力向上を図るための授業改善推進プラン

府中市立府中第一中学校

教科：技術・家庭科（技術分野）		
生徒の学習状況	1年	道具を大切に使用するという点に対して日常的に工具を使用していないこともあり正しい使用法を定着させることができていない。授業中に集中力が持続しない生徒が多い。また、小学校でタブレットパソコンが貸し出されているためコンピュータに関するスキルは高いが、情報モラル、情報セキュリティに対する指導が必要。
	2年	提出物、作品の提出についてはほとんどの生徒が提出期限を守っている。しかし作品への丁寧さ、道具の適切な使用方法について改善が必要である。実習において、危険を伴う作業があるのでプロジェクターを利用した説明をおこなっている。
	3年	提出物、課題についてはレポートの提出状況は昨年度に比べて改善されてきている。学習の定着状況：学習領域によって得意、不得意が出てきている。生物育成の授業では生物を育てて経験がないため、昆虫などを怖がる生徒が多い。
現状の課題	1年	生活の中で自らものを作るという経験が少なくなり、色々な工具、道具使用法が習得できていない。
	2年	コンピュータの家庭普及に伴い、コンピュータの使用法は確立してきている生徒は多い、個々にその差が大きくなっている
	3年	生活の中で自ら生物を育てるという経験が少なくなり、色々な道具の使用法が習得できていない。
具体的な授業改善策の方策	◎主体的、対話的で深い学びの視点から	
	1年	実習時間において、作業方法を丁寧に指導することにより各道具の使用法を習得させる。また、グループで作業させることにより道具の使用法を学び合うこととお互いのスキルを高める。SDGsの観点から森林管理、持続可能な開発について深める。
	2年	授業内容や作品の製作方法をわかりやすくするために、板書の工夫やワークシートの充実、ICT機器を使用した指導を行う。各課題ごとに振り返り、実技テストを行うことで操作方法も定着を図る。SDGsの観点からエネルギーへのアクセス持続可能な消費と生産について深める。
	3年	栽培の実習においては、園芸作業が初めての生徒がほとんどなのでワークシートに作業方法を説明し、それを実演して技術をしゅうとくさせる。また、レポートを提出させることで振り返り作業を行い技術の定着を図る。SDGsの観点から陸域の生態系について深める。
	◎学びに向かう力等を育むための視点から	
	1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>道具の使用法、作業手順を画像で示すことにより、使用法をより明確にする。</li> <li>実習レポートをデジタル作品で製作することにより情報を発信する力を高める。</li> </ul>
	2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>道具の使用法を画像で示すことにより、使用法をより明確にする。</li> <li>情報の計測、制御の題材においてプログラミング学習をおこなう。</li> </ul>
	3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>道具の使用法、作業手順を画像で示すことにより、使用法をより明確にする。</li> <li>情報の実技試験をICT機器を用いておこなう。</li> </ul>